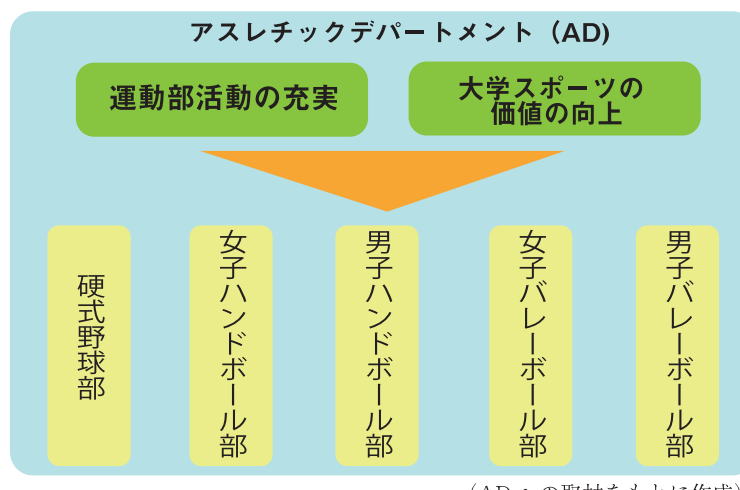


発足から間もなく2年…… 筑波大 ADの現状と課題

ADは加入する運動部 それぞれ1人ずつ配置する。硬式野球部では、練習中各部のトレーナーは、効率の熱中症を防ぐため、真夏の練習メニューの考案や日正午から午後3時の間の練習への助言、部員がけがを負った際の処置などにあたる。これにより、現場の安全管理に努めている。

練習の在り方見直す

その結果、各部は練習の在り方を見直している。硬式野球部では、練習中各部のトレーナーは、効率の熱中症を防ぐため、真夏の練習メニューの考案や日正午から午後3時の間の練習への助言、部員がけがを負った際の処置などにあたる。これにより、現場の安全管理に努めている。



設立は国内初

ADの佐藤壮二郎・ス ポーツアドミニストレータ での、大学の運動部の運営に携わることになった。日本では、大学の運動部の運営に携わることになった。日本では、大学の運動部の運営に携わることになった。

スポーツの「健全化・最大化」を目指す

ADの設立は、大学の運動部の運営に携わることになった。日本では、大学の運動部の運営に携わることになった。日本では、大学の運動部の運営に携わることになった。

専任トレーナーを配置

男子バレーボール部のストレッチを指導するトレーナー(左)(1月21日、球技体育館で) = 國井俊介撮影

男子バレーボール部のストレッチを指導するトレーナー(左)(1月21日、球技体育館で) = 國井俊介撮影

男子バレーボール部のストレッチを指導するトレーナー(左)(1月21日、球技体育館で) = 國井俊介撮影

「未加入の部も支援」

ADの佐藤壮二郎・ス ポーツアドミニストレータ での、大学の運動部の運営に携わることになった。日本では、大学の運動部の運営に携わることになった。

「内部資金で予算カバーしたい」

ADの課題を語る佐藤壮二郎氏(昨年12月26日、グローバルスポーツイノベーション棟で) = 加藤優花撮影

ADの課題を語る佐藤壮二郎氏(昨年12月26日、グローバルスポーツイノベーション棟で) = 加藤優花撮影

ADの課題を語る佐藤壮二郎氏(昨年12月26日、グローバルスポーツイノベーション棟で) = 加藤優花撮影

ADの課題を語る佐藤壮二郎氏(昨年12月26日、グローバルスポーツイノベーション棟で) = 加藤優花撮影

海外の先進的な取り組み学ぶ

ADの課題を語る佐藤壮二郎氏(昨年12月26日、グローバルスポーツイノベーション棟で) = 加藤優花撮影

スポーツ教室で地域交流

ADの課題を語る佐藤壮二郎氏(昨年12月26日、グローバルスポーツイノベーション棟で) = 加藤優花撮影

ADの課題を語る佐藤壮二郎氏(昨年12月26日、グローバルスポーツイノベーション棟で) = 加藤優花撮影

記者の声



西村大祐

べきなのは、公平性が保たれた入試方式を示すことだ。そのため、現場の声を耳を傾け、議論を重ねることが欠かせない。

筑波大は当初、一般選抜入試で民間試験の成績をレベル分けし、満点の200点を超えない範囲で共通テストの点数に加点を進めようとした。課題は「話す」力を測っていた。課題は「話す」力をどのように測るかだ。公平性を確保するために、本来、大学入試センターが主導して全国一律のスピーキングテストを実施すべきだ。しかし、採点者の確保などの理由で難しい。大学が独自で問題を作成し、2次試験で評価する方式が現実的ではないか。複数の大学と共同で問題を作り、試験する方法もある。民間試験の利用を前提とせずに検討を進めてほしい。

【2面参照】2021年度入試から実施予定だった大学入試改革の2本柱の導入が見送られた。大学入試共通テストでの英語民間試験の活用と国語・数学の記述式問題のことだ。これらは議論当初から問題点が指摘されていた。決定が遅かったとはいえ、不備を認めての見送りの判断自体は、評価したい。

特に、民間試験の活用を巡っては、経済格差や地域差が影響する▽複数の民間試験を同じ尺度で評価することはできない▽民間試験の日程に学校行事が左

英語民間試験見送り 根底から崩れた改革の柱 現場の声重視し再検討を

要望している。

こうした問題を解消しないまま拙速な議論で入試改革の方針を決定し、受験生や学校現場の混乱を招いた文科省の責任は極めて重い。

文科省や大学が、取り組む

【2面参照】2021年度入試から実施予定だった大学入試改革の2本柱の導入が見送られた。大学入試共通テストでの英語民間試験の活用と国語・数学の記述式問題のことだ。これらは議論当初から問題点が指摘されていた。決定が遅かったとはいえ、不備を認めての見送りの判断自体は、評価したい。

特に、民間試験の活用を巡っては、経済格差や地域差が影響する▽複数の民間試験を同じ尺度で評価することはできない▽民間試験の日程に学校行事が左

筑波時評

昨年12月4日、アフガニスタンで水路の建設や医療活動を行っていた中村哲医師が何者かに銃撃された。生前より憲法9条があるから日本人は海外で活動していても安全が守られていると主張し、憲法9条改正や自衛隊の海外派遣に一貫して反対し続けていた中村医師の死は、日本の国際貢献のあり方について改めて考えさせられる事件だった。

中村医師銃撃事件 中立性損なえば敵視の危険 国際貢献のあり方議論を

小切手外交と揶揄されていると認識から、自衛隊の海外派遣を拡大していった。

一方、自衛隊の海外派遣の促進は、活動における中立性の損失につながる。国連は、冷戦期は役割をPKOに限定し中立性を重視していたが、冷戦後は武力行使を行うようになった。武力行使を行う組織を支援すれば、悪とみなした集団から日本も敵視される危険がある。

中村医師が自衛隊の海外派遣の範囲拡大や憲法9条の改正に反対していたのは、憲法9条によって担保されている日本の中立性が損なわれるからである。

中村 健史 助教 (国際関係論)



人文社会系・助教。2013年防衛大学校総合安全保障研究科修了。博士(安全保障学)。同大特任研究員などを経て、18年より現職。

反射鏡

センター試験の思い出

最後の大学入試センター試験が1月18、19日に実施された。1990年の初回から約30年を経て、来年度からは大学入試共通テストに衣替えする。筑波大生には、センター試験にまつわるような思い出があるだろうか。中央図書館前で聞いた。(西村大祐II人文書類2年、梅津拓人II比較文化書類1年、田所涼II教育書類2年、大和祐菜II障害科学書類1年)

【障書1年・女性】 焦ったが、推薦入試で合格できなかった。数学で失敗し、合否判定していたことが後で分かった。【障書1年・女性】 数学で失敗し、合否判定していたことが後で分かった。【障書1年・女性】 焦ったが、推薦入試で合格できなかった。数学で失敗し、合否判定していたことが後で分かった。

【人文3年・男性】 試験3日前から本番までバニック状態に陥ってしまった。ところが、試験監督も含めた周りの人達は平然としていた。その光景を見て、周りの人と自身の感覚にズレがあるのを感じた。【文言1年・女性】 試験中に地震が起き、半ばバニック状態に陥ってしまった。ところが、試験監督も含めた周りの人達は平然としていた。その光景を見て、周りの人と自身の感覚にズレがあるのを感じた。



イラスト 長尾彩夏 (地球進化学専攻2年)

【社学4年・男性】 会場になった建物の部屋割が、高校の友人と同じだったこともあり、それほど緊張することもなく、テストを終えることができた。【社学1年・男性】 会場になった建物の部屋割が、高校の友人と同じだったこともあり、それほど緊張することもなく、テストを終えることができた。

【心理4年・男性】 朝、寝過ぎてしまい、予定していた時間に家を出ることができなかった。汗だくになりながら走って、どうにか試験に間に合うことができた。【心理2年・男性】 試験の始まりから終わるまで、トラブルもな流れのように進んだために、余りにもあっさりとしたものに感じられた。そのせいもあってか、センター試験を受けたという実感も「頑張った」という実感もわかなかった。

芸能人の不祥事とメディア

違法薬物使用、事務所を通さない反社会勢力への「営業」など、芸能人のさまざまな不祥事が報じられていく。メディアはそうした芸能人の露出を控える方針をとる場合が多い。時には放映前の収録済み作品を撮り直し、市場に出回る音源や映像を回収する騒ぎも起きた。筑波大生はこうしたメディアの対応についてどう考えているのか。中央図書館前や春日エリアなどで聞いた。(國井俊介II社会学書類2年、田所涼II教育書類2年)

【生資科1年・女性】 り、不祥事の問題を再燃させ、メディア露出することで、せしめようかもしれない。その芸能人に注目が集まると、本人のためにも控えたほうがいいのではないかと。そうやって騒ぎ立てることで自分たちのお金儲けに有名人名を利用するメディアもあるように見える。【又創1年・男性】 不祥事を起こしている人を見て、同じことをやろうと思う人は少ないはずだ。メディアが露出自らする必要はないと思う。【知識2年・男性】 不祥事を起こした芸能人には確かに負の印象があるが、それとメディア各社が過去の作品の放送などを自粛するのは関係のない話だ。作品中の不祥事は別の話だ。【知識2年・女性】 作品に罪はない。ドラマなどは、役と役者の人格とは切り離して観るべきもので、封印はやりすぎだ。

構成3年展覧会「Sanagi」

「羽化」控えた40点を展示

芸術専門学群構成専攻3年生の作品を展示する「構成特別展覧会」が、12月10～18日、総合交流会館で開催された。学生40人が1人1点、パッケージデザインや絵画、映像作品などの作品を展示し、402人が来場した。



「自分の作業風景も作品の一部」として作業する高橋さん(昨年12月18日、総合交流会館で)

「Sanagi」の副題を付けた文谷真由香さん(芸専3年)は「卒業を蝶の羽化に例えて、その前の蛹である今の私たちを見てもういたい」と話した。高橋要収さん(同3年)の作品「無呼吸」は、ある日突然人面魚に変わってしまった主人公を描いた未完の漫画と、その漫画のシナリオを高橋さんが読み上げる音声、そして机に向かい漫画を描いている高橋さん本人で構成されている。

高橋さんは、作業風景そのものも作品だというコンセプトを掲げ、展示期間中はほぼすべての時間を展示場所ですごした。「自分の何気ない空想を漫画に描いている。漫画自体が自分の内面を描いたものなので、

漫画を描く行為そのものも展示してしまえば面白いと思った」と自作を解説した。来場した芸術専門学群2年の学生は「来年度は自分も演習を受講するので、参考にしたい」と話していた。(田所涼、写真も)

1/100 展開催 「好きなもの」表現

筑波大の情報メディア創成学類と図書館情報メディア研究科の学生らによる展示会「1/100展」が、昨年12月12～14日に7A棟と7B棟で開催された。同展は「デジタルコンテンツ表現実習」と「コンテンツ製作論」の講義の一環として開かれた。「自分の好きなものを100個あげて、そのうちの1つを表現する」というテーマで学生たちは作品を制作した。ジャンルは写真、映像、ゲームと多岐にわたる。複数の学生による共同作品も多く、31人の学生による23作品が展示された。



音楽に合わせて輝くツリーを模した野崎さんの作品(昨年12月14日、7B棟で)

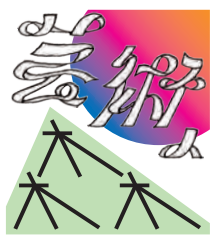
野崎陽奈さん(メ創3年)の「小さな幸せを、あなたに」はクリスマスツリーを模した作品。主に100円ショップで購入した安価な商品を利用して制作されたツリーを、LEDライトが音楽に合わせて照らし出す。野崎さんは「大学周辺ではクリスマスやハロウィンでも街の風景が変わらず寂しい。アパートや宿舎で季節を感じてもらえるように制作した」と述べた。

吹奏楽団演奏会 観客400人を魅了

筑波大学吹奏楽団の第82回定期演奏会が、昨年12月12日にノバホール(つくば市吾妻)で開かれた。ポピュラーとクラシックスティージの2部構成で、約450人の観客を魅了した。

第1部ポピュラースティージの最後は、英国のバンド「ユー・ロイド・ウェバー」が作曲したミュージカル「オペラ座の怪人」の劇中歌7曲がメドレー形式で演奏された。メドレー最後の「The Phantom of the Opera」は、怪人がヒロインをオペラ座の地下に招く場面で見られる幻想的な主題曲とともに、突如としてステージ正面に怪人の仮面が映し出される演出で、観客を魅了した。「オペラ座」の世界に誘った。

来場した学生は「メディアア創成学類の学生の作品展なのでデジタル系の作品が多いと思っていたが、作品の幅が広く驚かされた。良い刺激を受けた」と話した。(田所涼、写真も)



筑波大学混声合唱団

筑波大学混声合唱団の第44回定期演奏会が昨年12月15日、ノバホール(つくば市吾妻)で行われた。四つの合唱曲集が披露され、約300人に歌声を届けた。

第1部は、学校生活をテーマにした小林香作詞、松波千映子作曲の組曲「箱船の教室」が演奏された。3曲目の「未来史」は、卒業を控えた生徒が将来に想いをよせる様子を描いている。

重なり合う歌声で「物語」紡ぐ

「ピアノの重低音の演奏の後、男声の力強く跳ね返るような歌声で曲が始まる。先生が生徒に言葉を送る場面だ。ライト兄弟の初飛行など、夢を追いかけたからこそ成し遂げられた偉業を男声と女声が交互に歌いかける。

後半になると、ゆったりとしたテンポに合わせて、どこか別れの戸惑いを感じさせる歌詞が続く。そんな中、ピアノは終盤に向けて再び力強くなり、「僕らが夢見て世界

は変わる」と高らかに歌い上げられる。若者たちの未来にも希望を与えるかのよびに、明るい旋律で締めくくった。

第2部で歌われたのは、混声合唱のための3つのエチュード「お伽草子」。主に室町時代に書かれた短編の絵入り物語を題材に作曲された。1曲目の「浦島太郎」は、浦島太郎が亀を助ける場面を優しい男声で描き、竜宮城での生活を華やかにハーモニーで表現した。2人の切ない恋心を、海を連想させるような琉球音階を用いたメロディが際立

た。地上に戻った浦島が見たのは、何百年も時が過ぎて変わり果てた故郷だった。乙姫と別れた浦島の後悔と回想をはかないうハミングで表現し、物語は終わった。



リハーサルに臨む混声合唱団の団員ら(昨年12月15日、ノバホールで)

第3部は、ドイツ語の合奏曲集で「プラムス作曲のワエルトリッヒェ、ゲゼンゲ」(世俗歌曲集)から5曲が披露された。最後の「マス・メドゥヒエン」(少女)では、恋に憧れる少女が素敵な男性との交際を夢見、胸をときめかせている場面が描かれる。

少女は山の斜面に立ち、自らの美しさを誇りつつ「顔にヨモギの苦汁を塗って、おじさんにキスされないようにしてやる」と強気に歌う。一方で、「若い男性にキスされた時に、薔薇の香りがするように」と願う。

徳永隆治 教授 (工学)

システム情報系・教授。早稲田大学大学院工学研究科博士課程修了。博士(工学)。早稲田大学助手、加州大バークレー校客員研究員、筑波大学講師を経て、2016年より現職。コンピュータゲームソフトウェア・アーキテクチャ・電子デバイス・電子デバイス等の産業応用に注力。



『線形代数とその応用』 G・ストラング 著

「自問自答」の先にある「絶景」

「線形代数」という非線形問題を研究していた助手から講師の時代、大変お世話になった故山口昌哉先生(京都大学理学部)が監訳されており、「学術と実学は車の両輪」と指導頂いた通りに通常の線形代数の教科書とは一線を画す独特なスタイルで書かれている。盛り込まれている応用事例は、電気・機械の力学からマルコフ過程の統計まで多岐にわたる。諸概念の解説においても、特異値分解を強調する一方で、ジョルダン分解を巻末付録に収める等、応用可能性を重視している。特に、1970年代の初版にも関わらず、数値計算上の安定性に注意を払い、計算機科学隆盛の現代に照準を合わせた先見性を備えている。開くたびに新しい発見があり、捲るたびに著者との対話が愉しいこの良書は、今でも多くの閃きを私に与えてくれる。

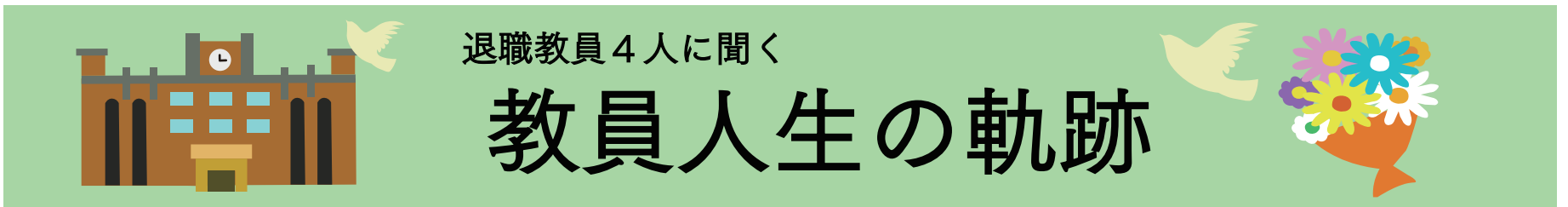
回りが許される学生時代にこそ、本書をガイドブックとして自分なりの景観を探してみたい。数学の自問自答とは、問題を解くという証明を行う「自問自答」の繰り返しである。多くの時間と根気が必要となるが、生涯続く価値のある経験、人生を大きく変えるような経験となるであろう。森の中に迷い込み、徒勞にかけた暁の一步で、大きく視野が開け、美しい絶景が広がる。学生には、そんな貴重な経験をしたいと思いつつ、毎回の講義をしている。

俳句 筑波大

・ ストーブや遺影代わりの拙き絵
・ まなざしを掌の冬帽に置く
・ 彼の忌の汽笛に亀の眠りかな

直木賞受賞作家、浅田次郎の「鉄道員」を原作とした作品。北海道のローカル線の駅長を務めている佐藤松の鉄道員一筋の人生を描く。

鉄道員(ぼっぼや) Blu-ray 3500円+税 発売中
発売元: 東映ビデオ 販売元: 東映各配売チェーンにて配信中。
※2020年1月時点。



退職教員4人に聞く

教員人生の軌跡

日本の総合大学の中でも幅広い学問分野を有する筑波大。今春も研究者として、教育者として活躍してきた多くの教員が定年退職を迎える。その中から4人の教授にこれまでの軌跡とこれからを聞いた。(西村大祐 人文社会学類 後藤佳博 社会学類 田所涼 教育学類 大森春歌 芸術学専攻)

教職課程の改革にも尽力

ドイツの教育学者ルドルフ・シュタイナーが提案した「シュタイナー教育」の理論と実践を専門とする。

▽12年間の一貫教育▽生徒の評価は記述式で、点数化しない▽教科教育の中に道徳教育も含んでいる

など、既存の教育に見られないシュタイナー教育の特質に注目して研究を行った。大学の教員養成にも力を注ぎ、2018年度まで筑波大全学群教職課程委員長を務めていた。

奈良県出身。大学進学以前は奈良工業高等学校に通っていたが、「試験管を何時間も見るのがつらい

退職後も続く 書家の道

中国の書の歴史を研究し、自身も「古代文字を真直に描く」書家として日本の書道界の発展に尽力してきた。2014年から4年間は芸術専門学群長も務めた。

出身は福井県。小学3年生から書塾に通い、書に親しんだ。一浪して東京教育大教育学部書道コースに進学した。

「学校はあまり好きじゃなく、読書に熱中した」という。大きな転機が訪れたのは、校舎がつくば市へと移り、筑波大大学院に進学した翌年の1979年だ。日中国交正常化を経て設けられた中国の国費留学生

「偶然がシュタイナーも日本の高専に相当する職業学校出身で、そこから教育の道へと転進している。自分と重ねて見ていたところがあったのかもしれない」と話す。卒業後は関西

研究者として1998年に筑波大に赴任。個人の心の内面を重視する日本の道徳教育と、シュタイナーのスピリチュアルな世界観に基づく教育思想を対照する研究を始めた。



吉田 武男 教授 (人間系・道徳教育学)

シュタイナー教育の第一人者

制度を利用し、北京の中央美術学院に留学。北京での2年間は、貧しかったが、人生最大の充実した時間だったと懐古する。そこで最も学びになったのは「中国人」という存在だった。長い年月をかけて書きた。2014年から4年間は芸術専門学群長も務めた。その風土やそこに生きる人々を知り、精神的に同化する中で、書籍では学べない「本物の書」を理解したと感したという。

後に、留學生先で見聞し、収集した文献を基に著わしたのが、2000年に出版した『中国近代の書人たち』(二玄社)。中国近代の書家50人を選出し、紹介した。大学院卒業後は中国語の翻訳の仕事をしていて、恩師の今井凌雪教授(当時)



中村 伸夫 教授 (芸術系・書)

書の歴史を中国で探究

「書は生きています。証。これからも僕にしか書けない書を残していきたい」と語った。

現場での 発掘を愛する

西アジア考古学の専門家としてイランやイラク、シリアの新石器時代の遺跡の発掘調査を盛んに行い、その最前線で活躍してきた。

西アジアを研究対象としたのは1977年、筑波大大学院1年の時に参加したイランでの発掘調査がきっかけだ。京都大の池田次郎教授(当時)に同行し、約4カ月かけて南イランの遺跡150カ所以上をしらみつぶしに回った。「西アジアは世界で最初に農耕が行われ、都市ができた地域。その遺跡を調査したことで、この地域が人類の歴史を解き明かす上でいかに重要かを実感した」と当時を振り返る。

だが78年のイラン革命の混乱で、発掘調査を続けられなくなった。その後イランを再び訪れることが許されたのは27年後の2004年だった。



常木 晃 教授 (人文社会学系・考古学)

シリア北西部の町、イドリブだ。2007年には、イドリブのテル・エル・ケビ、アイデンティティとして遺跡を守れるよう、遺産の解説本をもとにした漫画を作り、子供たちに配布していた」と意欲を見せた。

発掘で明かす考古学の魅力

考古学の魅力は、文字の記録が残されていない当時の人々の姿を、残された物的証拠から描き出せる点だ。文字を持たない民族だったクルド人の遺跡発掘に携わった経験から「歴史は文献や石碑に残る文字を手掛かりにつづられることが多いが、考古学には、その陰に隠れたもう一つの歴史を明らかにする力がある」と熱く語る。

「またまた自分の役割が残っている。これからも西アジアの現場で発掘を続けたい」と意欲を見せた。

科学の 重要性伝える

専門は量子化学計算。量子力学の理論に基づき、コンピュータを使って物質の性質や化学反応の進み方を予測する。新たな材料や医薬品などを開発する際の土台となる研究分野だ。

秋田県出身。「新しい大で面白そう」と、筑波大の自然科学類(当時)に1期生として入学した。筑波大大学院を経て助手として採用されて以来、筑波大で教員を務めてきた。大学入

から46年間を、筑波大一筋で過ごしたことになる。当初は、化学反応が起るやすいラジカル分子を研究テーマとし、反応の進み方などの予測を行っていた。当時、研究室の実験で電子スピン共鳴装置を用い



守橋 健二 教授 (数理物質系・量子化学)

「密度汎関数法の研究をする予定だ。今は紙と鉛筆と小さなパソコンがあればどこでも研究ができる。ほほほ笑みつつ今後の研究について語った。

物質の性質や化学反応を予測

退職後は、多忙で手を付けることができていなかった「密度汎関数法の研究をする予定だ。今は紙と鉛筆と小さなパソコンがあればどこでも研究ができる。ほほほ笑みつつ今後の研究について語った。



旅立つアスリート

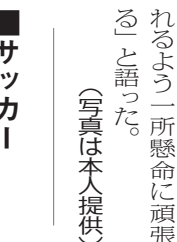
スポーツの強豪校として華々しい成績を残し続けている筑波大。今春も、活躍した多くのトップアスリートたちが母校を旅立ち、新たな舞台へと進む。その中でも大きな輝きを見せた4人の4年間の軌跡と今後の意気込みを聞いた。(飯田健介(社会学類、田所涼(理学部)、山田下潤(体育4年)、増澤すず(文学部))

■自転車競技



梶原悠未(体育4年)

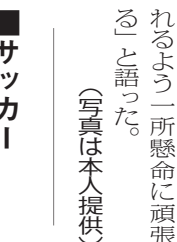
その後も数多くの大会で活躍し、東京五輪でも金メダル獲得に期待がかかる。在学中は指導者のいない中、授業で得た知識を元に自分でトレーニングメニューを組み、練習を重ねた。「授業で学んだ知識を元に、試行錯誤してきた。根拠のある練習をしてきたことが自信につながった。転機となったのが、2年時のW杯初優勝だ。」



三笠薫(体育4年)

2年時の天皇杯では、「ジャイアントキリング」を巻き起こした筑波大の中心選手として活躍を見せた。中でも2回戦・ペガサス対戦は決勝点を含む2ゴールで大金星をもたらした。自分にとってのターニングポイントだった。チャンスを二つ生かすことで、自分の可能性を広げたと意気込んだ。

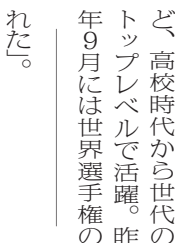
■陸上競技



山下潤(体育4年)

2000人が専門で、全国高校総体では準優勝するなど、高校時代から世代のトップレベルで活躍。昨年9月には世界選手権の選手として名を挙げた。

■オリエンテーリング



増澤すず(文学4年)

高校時代まで陸上競技の選手として活躍。卒業後は一般企業へ就職したが、競技も継続する。2017年11月のインカレではスプリント・ロング両部門で準優勝した。ところが、2018年3月のインカレ・ミドル部門では入賞を逃した。「レースの途中で見失い、ポロポロになってしまった。悔しく、大会後2週間は練習に励んだ。」

Hello! 先端研究

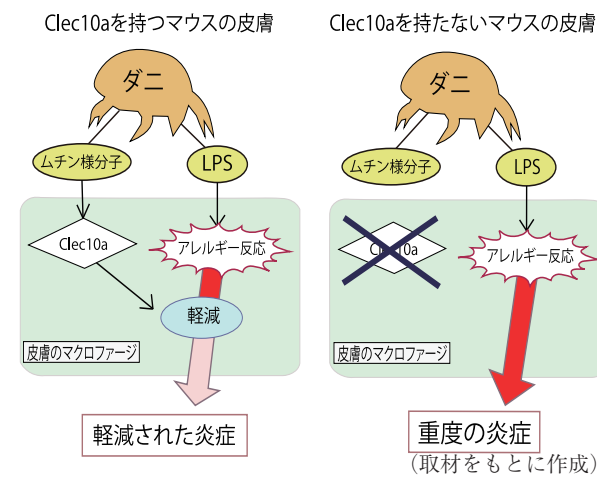


金丸和正助教

多くの人を悩ませているアトピー性皮膚炎。金丸和正助教(医学医療系)と渋谷彰教授(生存ダイナミクス研究センター)らは、ダニによって引き起こされるアトピー性皮膚炎を抑制する分子を世界で初めて発見した。副作用が少なく患者への負担の少ない治療の開発が期待される。アトピー性皮膚炎は慢

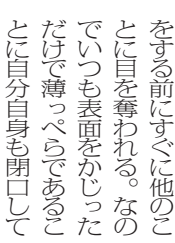
ダニによるアトピーを抑制 副作用少ない治療を目指す

性的な皮膚病で、かゆみを伴う湿疹が良くなった。このマウスの遺伝子を解析した結果、皮膚で働く免疫細胞のマクロファージに発現するClec10aという遺伝子に変異が見つかった。そして、正常なClec10aは、ダニによるアトピー性皮膚炎を抑制する働きを持つことが分かった。更に詳細な解析で、ダニには、アトピー性皮膚炎を誘導するLPS(エンドトキシン)と、Clec10aの働きを活性化して皮膚炎を抑えるムチン様分子が用いられている。しかし、ステロイドは免疫反応を全般的に抑える



ン様分子という種類の成分が含まれていることが明らかになった。アトピー性皮膚炎を発症したマウスの体表にムチン様分子を直接塗ったところ、Clec10aが活性化し、皮膚炎の症状が改善した。

手紙



自分自身の性格を顧みて判断すると、私は熱く、やさしく、冷めやすい性格である。カタチから入るタイプでもある。思えば子供の頃からそう、その傾向の強弱はありつつも、全体的に大きな変化はなく今まで来ている。

自分が選んだ職業へつなげていくのは間違いない。なせならば私の仕事のモチベーションの大半はそこだと思うからだ。

冷や汗をかき、失敗を経験して初めて見えるものがある。まずは飛び込んでみなければ、やってみて感じなければわからない。自分自身の特性も、その職業のなかでの自分の立ち位置も、全て経験からしか見えてこなかったと思っ

「好奇心こそデザイナーの命」



首都大学東京教授・カーデザイナー 難波 治 さん

「深め」に生きていく。しかし一方でまた広く浅くは続けている。好奇心こそデザイナーの命であると信じているからだ。そして相変わらずカタチから入るのが大好きでやめられない。(昭和54年度芸術専門学群卒、写真は本人提供)

「深め」に生きていく。しかし一方でまた広く浅くは続けている。好奇心こそデザイナーの命であると信じているからだ。そして相変わらずカタチから入るのが大好きでやめられない。(昭和54年度芸術専門学群卒、写真は本人提供)

「深め」に生きていく。しかし一方でまた広く浅くは続けている。好奇心こそデザイナーの命であると信じているからだ。そして相変わらずカタチから入るのが大好きでやめられない。(昭和54年度芸術専門学群卒、写真は本人提供)

箱根駅伝 不完全燃焼の主力3年生 「来年はもっと強くなれる」



競り合いゴールを目指す10区走者の児玉(左)(1月3日、泉岳寺駅前で) = 池田花於里撮影

【2面参照】東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)が1月2、3日に行われた。筑波大は総合最下位に終わったものの、沿道やゴールにはチームを応援する多くの観客が集まり、選手たちを大学全体で後押しした。26年ぶりに本戦出場を果たした筑波大の、新たな歴史を刻む時計の針が動き出した。

陸上 記者の目

筑波大の本戦出場の原動力となったのが、3年生の選手たちだ。昨年10月に行われた予選会では、西研人(体専3年)がチーム内

2位、猿橋拓己(社工3年)が同3位、昨年関東学生連合チームで箱根駅伝に出走した相馬素史(体専3年)が同4位でゴール。3年生の好走が、予選会突破に大きく貢献した。また、予選会出走できなかったもの、大土手嵩(同3年)はチームの主将を務め、尾原健太(地球3年)や上迫彬(同3年)は駅伝主務としてチームの運営に尽力した。

競技にひたむきな姿勢をみせる3年生に、下級生も信頼を寄せる。1年生ながら予選会でチーム内6位の

小林竜也(体専1年)は練習や運営でチームの先頭に立ってくれた3年生がいたから今のチームがある」と話す。そんな3年生たちにとって今大会は、次の箱根を目指す上でも、大きな転換点となった。

しかし、それぞれの走りは決して満足のいくものではなかった。1区を任せられた西こそ「力を出し切る」とができた」と区間11位の健闘を見せたが、2区の金丸逸樹(同4年)から15位でたすきを受け取り、チームの順位を押し上げを期待されていた猿橋は順位を下げた。主将の大土手もまさかの区間19位に終わり、「チームの順位を最下位まで下げてしまい申し訳ない」と悔しさを見せた。2

度目の5区を走った相馬は足に不調が現れて区間19位となり、「箱根の山は厳しかった」と肩を落とした。

復路は岩佐一乘(同1年)、杉山魁声(同2年)、伊藤大貴(同2年)、川瀬由夢(医学5年)とたすきををつないだが、10区を走る児玉は繰り上げスタートとなり、川瀬からたすきを受け取ることはできなかった。

チームの主戦力として期待されていた3年生。力を存分に発揮することほかなわなかったが、得たものは大きかったようだ。

「来年に向けて、チームとして強くなりたい」と口をそろえた。3年生は、自分ごとのようにチームに貢献できるかというのを問い直していた。大土手は「主将として、猿橋は「エース」として、相馬は「今の3年生が中心となって練習していけば、来年にはもっと強くなれる」と語り、上

野は昨年3月に北海道留寿都村で開催された全日本選手権の学生部門で優勝、一般部門で3位に入賞した。同時期に開催されたユニバーシアードや世界選手権でも日本代表として出場

野は昨年3月に北海道留寿都村で開催された全日本選手権の学生部門で優勝、一般部門で3位に入賞した。同時期に開催されたユニバーシアードや世界選手権でも日本代表として出場

野は昨年3月に北海道留寿都村で開催された全日本選手権の学生部門で優勝、一般部門で3位に入賞した。同時期に開催されたユニバーシアードや世界選手権でも日本代表として出場

野は昨年3月に北海道留寿都村で開催された全日本選手権の学生部門で優勝、一般部門で3位に入賞した。同時期に開催されたユニバーシアードや世界選手権でも日本代表として出場



ロングボールを呼び込む和田(中央)(昨年12月16日、明治大戦で)

小井土監督「明治が強かった」 準々決勝で敗れる

全日本大学選手権

【味の素フィールド西が丘(東京都北区)で飯田健介(社会学類3年、写真も)12面に関連写真】大学日本一を決める全日本大学選手権(インカレ)が昨年12月11-22日に行われた。筑波大は16日の準々決勝で明治大と対戦したが0-1で敗れ、3年連続のベスト8敗退に終わった。

試合は終始明治大ペースで進み、筑波大は守備に追われる展開が目立った。それでも山川を中心に全員が体を張って守り続け、ゴールを許さない。一方で攻撃では、最前線で起用された和田育(同1年)が積極的な動き出しでボールを呼

びわこ成蹊スポーツ大と対戦。山川哲史(体専4年)の2ゴールの活躍もあり、延長戦の末2-1で勝利した。続く準々決勝の相手は関東大学リーグ戦、総理大臣杯を制した大学3冠を狙う明治大。相手の猛攻を防戦一方ながら耐え抜いたが、終盤に力尽き0-1で惜敗した。

後半、先にチャンスを作ったのは筑波大。54分知久航介(同3年)のロングボールを加藤匠人(同2年)が落とし、走り込んでいた和田がペナルティーエリア内で倒されPKを獲得。だがシュートは相手キーパーに止められ、先制のチャンスは逃した。

その後、先にチャンスを作ったのは筑波大。54分知久航介(同3年)のロングボールを加藤匠人(同2年)が落とし、走り込んでいた和田がペナルティーエリア内で倒されPKを獲得。だがシュートは相手キーパーに止められ、先制のチャンスは逃した。

Jリーグだけでなく海外も 5選手がプロの舞台へ



笑顔で合同記者会見に臨む選手ら(昨年12月23日、本部棟で)

サッカープロクラブに入団内定した筑波大学蹴球部の5選手の合同記者会見が、昨年12月23日に筑波大本部棟で行われた。

会見に登壇した選手は、三笠薫(体専4年)J1川崎フロンターレ、高嶺朋樹(同4年)J1北海道コンサドル札幌、山川哲史(同4年)J1ヴィッセル神戸、阿部航斗(同4年)J2アルビレックス新潟、大川圭(同4年)J1アルビレックス新潟シンガポール(新潟S)の5人。三笠、高嶺、山川、阿部は4選手はそれぞれ大学入学の下部組織でプレーしていたクラブに復帰する。大川は「1年間で結果を残さないプロの世界ではやっていけない。どこまでチャレンジできるか楽しみだ」と意気込んだ。

最新学術動向から身近な学内トピックスまで、日々東京大学から発信される旬なニュースを週刊でお届け。通常号のほか就職、大学院、受験、資格、入試等、テーマ別の特集号も含め年間42回発行

出版
東京大学情報本
『東大2020 考える東大』
1,500円+税

東京大学新聞年鑑2018-19
『東京大学解体新書』1,500円+税

公益財団法人 東京大学新聞社
〒113-8691 東京都文京区本郷7-3-1 東大構内
電話 03(381)13506 E-mail post@utnp.org
ウェブサイト http://www.todaishimbun.org/company
オンライン版 http://www.todaishimbun.org/

1920年の創刊以来、東京大学の「心」を発信し続ける

東京大学新聞

定期購読のお申込は、お電話もしくはメールアドレスまでご連絡ください。

購読料金(送料・税込)
1年間...7,400円
2年間...14,400円

野は昨年3月に北海道留寿都村で開催された全日本選手権の学生部門で優勝、一般部門で3位に入賞した。同時期に開催されたユニバーシアードや世界選手権でも日本代表として出場

野は昨年3月に北海道留寿都村で開催された全日本選手権の学生部門で優勝、一般部門で3位に入賞した。同時期に開催されたユニバーシアードや世界選手権でも日本代表として出場

野は昨年3月に北海道留寿都村で開催された全日本選手権の学生部門で優勝、一般部門で3位に入賞した。同時期に開催されたユニバーシアードや世界選手権でも日本代表として出場

野は昨年3月に北海道留寿都村で開催された全日本選手権の学生部門で優勝、一般部門で3位に入賞した。同時期に開催されたユニバーシアードや世界選手権でも日本代表として出場

野は昨年3月に北海道留寿都村で開催された全日本選手権の学生部門で優勝、一般部門で3位に入賞した。同時期に開催されたユニバーシアードや世界選手権でも日本代表として出場

多様な攻撃で専修大突き離す 3年ぶり5回目 インカレ優勝



速攻からシュートを決める増田(中央)(昨年12月15日、専修大戦で)

【駒沢オリンピック公園総合運動場(東京都世田谷区)で加藤優花II国際総合学類2年、写真も。12月に開催された第71回全日本学生選手権(インカレ)が昨年12月9-15日にかけて行われ、筑波大男子は3年ぶり5回目の優勝を果たした。全試合の結果を受け、最優秀選手賞には主将の牧草利(体専4年)、優秀選手賞に増田啓介(同4年)と山口颯斗(同3年)が選ばれた。また、増田はアシスト王を獲得した。

バスケット

14日の準決勝では大東文化大と対戦。一度は大東大に試合の流れを奪われたものの、徐々に点差を縮めた。試合終了5分前、牧が放ったシュートが決定打。60-58で僅差を制し、決勝へと駒を進めた。

15日の決勝では専修大と対戦した。立ち上がりは相手に連続ゴールを決められ、一時は点差を10点に広げた。第1クォーター終了後、菅原や山口が続き、筑波大の流れは止まらない。第4クォーターでも山口、更に野本大智(同3年)が相手のディフェンスをかくすべくシュートを決めて、相手突き放した。コート上の選手それぞれが活躍を見せ、筑波大は91-76で勝利。3年ぶり5回目のインカレ優勝を決めた。

牧は「これまで練習などで行ってきたことを、試合の最後までやり通そうとチームで確認した。(卒業した)先輩たちが苦しい思いをしてきたからこそ優勝だ」と話した。

吉田健司監督(体育系・准教授)は「4年生が中心となってチームをまとめていた。前々回は準優勝、今回は4位といった勝てないつらさがチームの一体感と今回の優勝につながった」と語った。

主将の杉山優平(同4年)は「東海大の最後の壁を崩せなかったことが全て。自分たちのミスもあるが、相手のプレッシャーが大きかった」と語った。

嶋崎達也監督(体育系・助教)は「FWの頑張りもあり、前半のロースコアは想定通りだった。ただチャンスが多くあった中で、相手のディフェンスを崩せなかったのは誤算。それでもみんなよくやってくれた」と選手をたたえた。

最大の武器はロングシュートだ。マークの少ない遠距離から放つ強力な一撃でゴールネットを揺らす。フィジカルの強さを活かしたシュートコースを塞ぐディフェンズでも、筑波大の窮地を幾度となく救ってきた。

直前には相手に点差を詰められたが、第3クォーターでは再び専修大を引き離した。ゴール下からシュートを狙われるも、徹底したディフェンスを見せた。また、井上らがゴール下でのシュートと外からのシュートをバランスよく決め、前半を46-36で終了した。

第3クォーター、牧のシュートを井上が押し込んだ。増田も相手のミスから速攻で追加点を挙げた。その後、菅原や山口が続き、筑波大の流れは止まらない。第4クォーターでも山口、更に野本大智(同3年)が相手のディフェンスをかくすべくシュートを決めて、相手突き放した。コート上の選手それぞれが活躍を見せ、筑波大は91-76で勝利。3年ぶり5回目のインカレ優勝を決めた。

ミス誘うも相手の守備崩せず ベスト8で敗退

ベスト8で敗退

全国大学選手権

ラグビー



東海大に対し、体を張り続ける杉山(中央)(昨年12月21日、東海大戦で) = 川久保悠平撮影

【秩父宮ラグビー場(東京都港区)で明石尚之II体専専門学群4年】ラグビーの大学日本一を決める全国大学選手権が昨年11月24日から今年1月11日にかけて行われた。2年連続の出場となった筑波大は、12月15日に行われた3回戦で同志社大と対戦。48-17で、4年ぶりに選手権で勝利を挙げた。だが、21日の準決勝

勝てば、東海大に3-24で敗れベスト8で敗退した。序盤は筑波大のペースで試合が進んだ。開始早々スクラムでは相手から2本連続でミス誘い、球際でも中原健太(体専3年)が隙を突いてボールを奪取するなど、FW(フォワード)の奮闘が際立った。だが、ラインアウトから一瞬の隙を突かれ、東海大に先制トライを奪われた。

その後は硬直状態が続いた。筑波大はゴール前で手元がおぼつかず、ノックアウトの反則が多発。一方、東海大もゴール前のラインアウトでミスをするなど、得点が入らなかった。球際で

も東海大に「ジャッカル」を決められると、筑波大もノックオンを誘う鋭いタックルを決めるなど、一進一退の攻防が続いた。

前半終了間際にペナルティゴールを決め、3-7で迎えた後半。立ち上がりには、スクラムで押し込んだり、ゴール前で攻撃を仕掛ける時間を作るも、トライには結び付かなかった。

逆に後半13分、ボールを奪われると、一気に攻められ追加点を奪われた。後がないう筑波大は、相手の固い守備をこじ開けられない焦りから要所でミスを連発。38分には、これまで抑えていたモールでもトライを奪

われ、試合を決められた。筑波大はついに1本もトライを決められず、3-24で試合を終えた。

最大の武器はロングシュートだ。マークの少ない遠距離から放つ強力な一撃でゴールネットを揺らす。フィジカルの強さを活かしたシュートコースを塞ぐディフェンズでも、筑波大の窮地を幾度となく救ってきた。

9年ぶり団体戦優勝

剣道

【東京武道館(東京都足立区)で西村大祐II文学類2年、写真も】大学1-2年生が団体戦で争う関東学生新人戦大会が昨年11月24日に行われ、筑波大は優勝を果たした。同大会での優勝は2010年以来、9年ぶり。

筑波大は安定した強さを見せ、準決勝までの4戦を順調に勝ち上がった。

いをしてきたからこそ優勝だ」と話した。

吉田健司監督(体育系・准教授)は「4年生が中心となってチームをまとめていた。前々回は準優勝、今回は4位といった勝てないつらさがチームの一体感と今回の優勝につながった」と語った。

主将の杉山優平(同4年)は「東海大の最後の壁を崩せなかったことが全て。自分たちのミスもあるが、相手のプレッシャーが大きかった」と語った。

嶋崎達也監督(体育系・助教)は「FWの頑張りもあり、前半のロースコアは想定通りだった。ただチャンスが多くあった中で、相手のディフェンスを崩せなかったのは誤算。それでもみんなよくやってくれた」と選手をたたえた。

スポーツの顔

ハンド



U-19日本代表キャプテン

藤川 翔大 (体専2年)

地方の大会。勝てば優勝の決まる一戦に敗れ、今まで味わったことのない悔しさを感じた。これを機に勝利を強く意識するようになった。

ねを疲労骨折。全体練習から1年近く離れ、筋トレや上半身だけを使った練習をこなす日々が続いた。「コートの中で練習に参加できない悔しさをかみしめていた。」

中学2年の春に復帰してからは、プレーで感じることに喜びを感じながら練習に取り組んだ。普段から試合中の展開をイメージして相手の動きを想定するなど、練習に向き合う意識も変わった。「自分の武器であるロングシュートもこの頃から少しずつ決まるようになってきた。」

けがを乗り越え攻守で活躍

写真本人提供

た兄の影響で興味を抱いた。兄と同じクラブに入ったが、最初は遊びの延長だった。転機となったのは小学3年時の中国

地元の平田中学でハンドボール部に加入。ベンチ入りを目指して練習に励んだが、練習の負担から1年の夏に膝、冬にす

全国の中心選手に。チームの中心選手に。全国大会では優勝を果たした。

高校では強豪校の岩国工業高校に進学。入学後すぐにベンチ入りを果た

「国際大会で目にした世界レベルのプレーに感銘を受けた。将来は海外のクラブでプレーしたい。」と語る高みを目指し、躍進を誓う。(國井俊介II社会学類2年写真本人提供)

つくば市 リサイクル進まない現状受け ごみ分別アプリ導入



アプリ「さんあ〜る」の画面イメージ(つくば市提供)

ごみの収集日や分別方法などをスマートフォンで手軽に確認できる無料アプリ「さんあ〜る」をつくば市が9月末に導入することが分かった。市の担当者はアプリを通じてごみの分別収集の周知を進め、リサイクル率を引き上げたいと話している。(国井俊介)

つくば市が初めて。アプリをインストールし、自治体の中からつくば市を選択すると利用できる。ごみの収集日カレンダーや約500種類の分別方法の分別方法・回収方法を確認できる。また、ごみ収集日を前日や当日の朝に通知する機能も備わっている。同市ではこれまで、むきだし状態の刃物や有害物質の水銀を含む蛍光灯などが燃やせるごみとして捨てられることがあった。ガス抜きせずに捨てられたスプレー缶が、ごみ収集車で圧縮され、爆発することもあった。

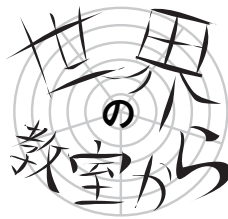


サッカーで国際貢献 チャリティ大会開催

サッカーを通じて国際貢献を目指す筑波大学の学生団体「WorldFuture TSUKUBA」が主催する「第18回チャリティフットサル大会」が昨年12月14日、筑波学院大サッカーフィールド(つくば市吾妻)で行われた。大会は年2回開催で、今回は筑波大学サッカー同好会や社会人チームなど29チーム247人が参加した。大会では、サッカー初心

者でも参加しやすいビッグリーグと、サッカーサークルやスポーツが得意なチームが参加するアドバンスリーグが設けられている。前半はそれぞれのリーグ戦、後半はリーグ戦の上位チームによるトーナメント戦が行われた。サッカー元日本代表の中田浩二さん(社主専攻2年)がゲスト参加し、試合にも出場するなど会場を盛り上げた。

代表の久保田優芽さん(国際3年)は「これまで3つの小学校にグラウンドを建設するなどハード面の支援を重視してきた。今後は現地でサッカーの指導者を探してチーム作りを進めるなど、スポーツの文化が根付くような活動をしていきたいと話した。(後藤佳伶 学生会学類2年)



ケルン大学 (ドイツ) 河下 未歩

「長期留学がしてみたい!」そんな漠然とした憧れから決めたドイツ留学からは約4カ月。私は、ドイツ西部のケルンという町に暮らしています。住まいは大学の学生寮。学生寮といっても筑波大学の学生寮とは異なり、大学から30分ほど離れたところにあるため、大学まで電車で通っています。ルームメイトは、ドイツ人ももちろん、ウクライナやエクアドル、ナイジェリアなどからの留学生。バンクラデ



ケルン大学の学生寮

「長期留学がしてみたい!」そんな漠然とした憧れから決めたドイツ留学からは約4カ月。私は、ドイツ西部のケルンという町に暮らしています。住まいは大学の学生寮。学生寮といっても筑波大学の学生寮とは異なり、大学から30分ほど離れたところにあるため、大学まで電車で通っています。ルームメイトは、ドイツ人ももちろん、ウクライナやエクアドル、ナイジェリアなどからの留学生。バンクラデ

とても難しいですが、子どもたちにドイツ語を教えるつもりで参加させてもらっています。この教室で感じていることは「日本のアニメと漫画の普及力」。ワンピース、ハイキュー!!、キャプテン翼、名探偵コナンなど、子どもたちがいつもうれしそうに話してくれます。ある日「どうしてそんなに沢山知っているの?」と尋ねると、「ドイツの子供なら皆、テレビやYouTubeで見ているよ」と言われ、9000キロ離れたこの地で日本のカルチャーが浸透していることをとてもうれしく思いました。

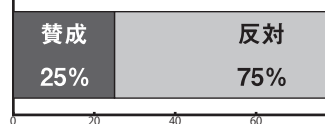
留学期間は残り3分の2ほど。周りの方への感謝を忘れずに、多くのことを吸収して実りある留学生活にしたいです。(学生会学類3年、写真は本人提供)

土曜授業 教職の集中授業に影響 全代会アンケート 反対75%

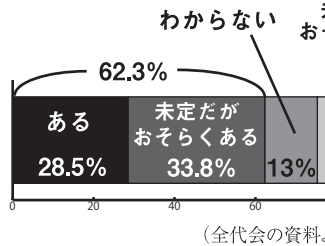
【一面参照】筑波大は東京五輪・パラリンピックの大会期間中に授業を行わず、その代わりに春学期に8回土曜授業を行う。全学学類・専門学群代表者会議(全代会)が昨年10月に実施したアンケートでは、回答した学生の75%が土曜授業に反対だった。また、土曜日に集中講義をすることが多かった教職課程科目の開講日程変更、他の科目の開講日と重複する可能性が出ているという。(西村大祐、遠子内早紀)

学生からは反対の声 全代会の教育環境委員会は昨年10月、インターネットを利用し、学群生を対象に五輪開催に伴う土曜授業に関するアンケートを実施した。回答総数は956件だった。「オンラインピックへ6割にのぼった。一方、土

五輪への協力のために土曜授業を行うことをどう思うか (956件)



2020年春学期中、土曜授業があると実施できない活動(公演や公式戦など)はあるか (956件)



(全代会の資料より本紙作成)

教職課程に影響も 教員免許の取得に必要な教育課程科目には例年、土曜日に集中講義形式で開講されるものが多かった。グ

ローバル教師力開発推進室によれば、来年度は春学期に8回土曜授業があるため、日曜日や大型連休中に集中講義が開講される見通しだ。春学期に開講していた一部の集中講義を秋学期に移すことも検討中だ。

また、小学校教諭の教員免許取得に必要な科目で、附属小学校の教員が担当していた授業は土曜日に実施してきたが、来年度は日曜日に移される。

同推進室の唐木清志教授(人間系)は「教職関係の講義の開講日程が変わること、学生が履修したい他の科目や必修科目の開講日と重なる可能性が十分にあり、できる限り重複がないようにしたい」と話した。



参加者らは説明を受けてからピクトグラムの作成に臨んだ(昨年12月10日、中央図書館で)

研究内容をピクトグラムに ワークショップ開催

「ピクトグラム」を参加者にデザインしてもらい、ピクトグラムはトイレや非

常口の表示など公共施設で広く使われ、絵文字や簡単な語とも呼ばれる。学生や近隣住民ら約30人が参加し、研究内容やサークル活動、趣味などを表すピクトグラム作りに取り組んだ。

参加した学生の一人は「ハート形に鍵盤をのりぬいたピクトグラムで、所属するサークル「ピアノ愛好会」を表現した。「サークルの特徴をうまく落とし込めた。最初はピアノ全体を描こうとして複雑になってしまっていたが、アドバイスを受けた後の完成品は最初よりシンプルなのに要点が伝わりやすくなった」と感想を述べた。

「必ずしも説明したいものの全体をすべて描く必要はなく、特徴となる部分を描けばよい」などの指導を受け、その一環として企画した。日本ではピクトグラムが普及するきっかけとなったのは、1964年の東京五輪

次に、ワークショップで作られた研究内容をピクトグラムの例を書く。(田所涼、写真も)

Who's Who?

筑波大生専用の時間割アプリ「Twin:te」を開発した

高梨 優也 さん (情科2年)



Twin:teの画面を見せる高梨さん (1月21日、中央図書館で)

筑波大生専用の時間割アプリ「Twin:te(ツインテ)」を提案し、友人らと共に開発した。Twins(ツインズ)から自動的に講義が登録できる上、欠席日数なども記録できることが好評を博し、「便利すぎて感動した」「他のアプリとは比にならないくらい使いやすい」など絶賛の声が集まる。昨年12月のリリースから1カ月足らずで約1000人の筑波大生が利用を始めた。早くも「筑波大生必携」となったアプリの生みの親だ。

茨城県出身。幼い頃から親の勧めで、タイピングゲームソフトや表計算ソフトを使うなど、コンピューターに触れてきた。小学5年のとき、こうしたソフトが全て「プログラミング」でできているということを知った。プログラミングを学べば自分でソフトを作れるのではないかと。早速図書館に駆け込み、プログラミング関係の本を読んだ。学業と並行して、独学で学び始めた。

初めてソフトを作ったのは文化祭の実行委員会に所属していた高校2年の時。文化祭の企画として開かれる「イントロクイズ」では、正解の音楽を先に出してしまふなど、パソコンに記録した出題音や効果音の流し間違いが多発していた。これまで学んだプログラミングの知識を使った解決策を考え、次に流す音が簡単に分かるパソコンソフトを自作した。友人からは「これは良いね」と喜びの声が上がった。イントロクイズは無事成功。後輩からは、「ソフトの作り方を教えてほしい」と頼まれ、高校のコンピューター室でプログラミング講習会を開いた。

専門的にコンピューターについて学びたいという思いから、筑波大の情報科学類に進学。学園祭実行委員会にも入った。委員会は、雙峰祭のウェブサイトを担当した。「自分がいなければ、サイトは成り立たない。重要な役割だと感じた」。

ツインテの開発を始めたのは大学1年の時。一般の時間割管

「更に使いやすくしたい」。スマホアプリとして完成させることを目標に、大幅に開発を直すことを決めた。学園祭実行委員の友人とデザイン担当として芸術専門学群の学生にも新たに加わってもらい、4人チームで開発を進めた。

8カ月の製作期間を経て、昨年12月に完成アプリはiOS、Androidのどちらでも利用可能で、パソコンやタブレットでも使える。このアプリを使うと、ツインズ経由で1年間分の講義の情報を自動的に取り込むことができる。講義ごとに出席や欠席、遅刻の回数を記録する機能や、アプリから講義のシラバスを見られる機能なども追加した。「SNS上でのアプリに対する感想を見ると、やって良かったなと感じる」と語る。

ネットワークの管理や保守をする「ネットワークエンジニア」が将来の夢。「インターネットは私たちの生活と切り離せないインフラで、根本を支える仕事はやりがいがある」と話す。

(北山瑠菜||比較文化学類1年写真も)

夢はネットワークエンジニア 人を支える仕事がしたい

「令和初」の三が日から筑波大の名が日本全国にとどろきました。陸上競技部の男子駅伝チームが26年ぶりに箱根駅伝に出場しました(1、2、8面)。私立の強豪校に立ち向かう姿に多くの声援が集まりました。本紙も取材班を編成して現地取材を行いました。▼ですが、楽しい話題ばかりではありません。フィリピンでの被災者支援活動が睡眠薬強盗の被害に遭いました(2面)。電力自由化に関するトラブルも起きています(11面)。更なる被害を防ぐため記事を書く村大祐||人文学類2年

吹奏楽団 定期演奏会



リハーサルでオペラ座の怪人を演奏する吹奏楽団の団員ら (昨年12月11日、ノバホールで) = 遠子内早紀撮影

5面へ

サッカー ベスト8で敗退



敵陣でドリブル突破を図る知久(中央)(昨年12月16日、明治大戦で) = 飯田健介撮影

8面へ

男子バスケ インカレ優勝



ドリブルでディフェンスをかかわす山口(右)(昨年12月15日、専修大戦で) = 加藤優花撮影

9面へ

閉鎖された宿舎に明かり灯る



人間系の教員の研究室として利用されている平砂学生宿舎9号棟(1月7日、平砂学生宿舎で) = 後藤佳怡撮影

11面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活

編集後記

「令和初」の三が日から筑波大の名が日本全国にとどろきました。陸上競技部の男子駅伝チームが26年ぶりに箱根駅伝に出場しました(1、2、8面)。私立の強豪校に立ち向かう姿に多くの声援が集まりました。本紙も取材班を編成して現地取材を行いました。▼ですが、楽しい話題ばかりではありません。フィリピンでの被災者支援活動が睡眠薬強盗の被害に遭いました(2面)。電力自由化に関するトラブルも起きています(11面)。更なる被害を防ぐため記事を書く村大祐||人文学類2年

編集・発行

■筑波大学新聞編集委員会
▼委員長||土井隆義(人文社会学系・教授||社会学)

▼副委員長||佐藤勤(学生部員)|黄谷純子(生命環境系・教授||果树園芸学)|竹中佳彦(人文社会学系・教授||政治学)

■筑波大学新聞編集部
▼編集代表||鴨志田公男(筑波大学・教授||サイエンスコミュニケーション)

▼編集長||西村大祐(人文学類2年)|▼副編集長||後藤佳怡(社会学類2年)|加藤優花(国際総合学類2年)|ほか編集部員9人

次号は

4月5日(日)

発行予定です

発行所||筑波大学

印刷||ヒラマ写真製版